別紙様式３

上越教育大学研究プロジェクト　終了報告書（若手研究）

研究代表者　所属・職名　人文・社会教育学系　助教
氏　　名　塚田　穂高

研究期間　令和２年度

研究プロジェクトの名称	**グローバル化時代の教育大から発信する「宗教」教育内容構成のための基礎的研究**
研究プロジェクトの概要	本研究は、21 世紀のグローバル化時代を生き抜くために求められる、広い意味での「宗教」に関する知識や視角、リテラシーを身につけることができる教育内容とその体系を、教育大から構成し発信するための基盤整備を行うことを目的とする。現今の宗教教育をめぐる議論は、大学における宗教（文化）教育の内容に集中しており、小・中・高で扱う教育的知識との連結が十分になされていない。その点で、教育大から構想する「宗教」教育とは、①学生が小・中・高で学んだ教育的知識と連続性を持って「宗教」教育を行える上に、またそれを習得した学生が小・中・高の教員として教育現場に立つ点、②社会科のみならず道徳・国語・多文化共生教育など教科・領域横断的に「宗教」教育を捉えやすい点において、強みがある。本研究では、そうした内容を構築し発信するための基盤を整えるべく、まずは小・中・高において「宗教」についての教育が、何についてどの程度まで行われているか／きたかを総合的に把握し、整理する。次に、申請者のこれまでの研究と従来の議論とを踏まえた上で、教員養成と学校現場とを意識した「宗教」教育の内容・体系についての具体像を提示することを目指す。
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	**○ 先行研究の網羅的把握・整理** 宗教教育をめぐる従来の議論・先行研究について、これまで収集・整理してきたものに加えて、近年の動向や関連領域のものも含めて、収集し、幅広く把握を行った。特に、小・中・高における宗教教育の具体的内容や、小・中・高・大における宗教教育の連続性、教育大学における宗教教育といった観点からの先行研究を可能なかぎり網羅的に調査した結果、先行研究の蓄積が不十分であることを確認した。後述する研究成果発信の中の論文執筆の際に、確認した内容を盛り込んだ。 **○ 小・中・高教科書ならびに関連記述の総合的収集と整理** 小・中・高の教科書における「宗教」に関わる記述について、総合的・体系的に収集し、整理を進めた。現行教科書については、中学校社会（地理・歴史・公民）・高校倫理・高校政治経済・高校現代社会・小学校道徳・中学校道徳の全教科書、ならびに高校日本史・高校世界史の複数教科書、用語集等を購入・収集し、そこにおける「宗教」記述を確認した。また、過去の教科書については、コロナ禍の影響のため出張による複写・収集は十分に行えなかったものの、大学附属図書館所蔵のものの閲覧・複写や、古書による収集を進めた。高校政治経済の教科書については、従前から行っていた作業を踏まえつつ、全教科書の該当部分をスキャンしてPDFファイルで保存するとともに、テキストデータに変換して整理することを完了した。中学校社会（地理・歴史・公民）、高校倫理教科書についても現行教科書を中心に画像データ・テキストデータの整理を進めた。以上の作業を通じて、ウェブサイト・データベース構築の準備段階

	となる作業を前進させた。 **〇研究成果の産出・発信** 　収集した教科書資料等を基礎として、第93回日本社会学会大会にて主に道徳教科書類について「現代日本の道徳教育と自己の再帰性」の題目で、第38回宗教法制研究会・第80回宗教法学会にて主に高校政治経済について「「信教の自由」「政教分離」はどう教えられてきたか—高校「政治・経済」教科書の記述分析から—」の題目でそれぞれ学会発表を行った。 　先行研究の網羅的な整理に基づき、小・中・高までの教育的知識と連続性を持った大学での「宗教」教育の内容とメソッド、教員養成と学校現場とを意識した教科・領域横断的な「宗教」教育の類型と方向性、課題を広く論じた論文「学校の中の「宗教」—宗教研究と中高等教育の連携接合を目指して—」を執筆し、学会誌に掲載された。その他、広義の「宗教」教育に関わりうる内容を含んだ関連する論考 4 編を執筆・発表した。 　研究内容に基づき、発展させた関連テーマで科学研究費を申請したところ、「戦後日本の「宗教」教育をめぐる社会的議論と教育内容についての宗教-社会史的研究」（基盤研究 C）が採択された（2021 年 4 月より）。
研究成果の発表状況	・塚田穂高 2020「学校の中の「宗教」—宗教研究と中高等教育の連携接合を目指して—」『上越社会研究』35：5-24。 ・塚田穂高 2020「宗教学者はオウム事件から何を学んだのか—地下鉄サリン事件から 25 年⑨—」『中外日報』2020 年 11 月 13 日付：7。（https://www.chugainippoh.co.jp/article/ron-kikou/ron/20201113-001.html） ・島薗進・塚田穂高 2021「宗教 新たな感染症の時代の苦悩と宗教」自由国民社編『現代用語の基礎知識 2021』自由国民社、252-256。 ・塚田穂高 2021「沖縄「孔子廟」政教分離訴訟 最高裁が違憲判決 解説 公有地の「宗教」施設 確認必要」『仏教タイムス』2890：5。 ・塚田穂高 2021「那覇孔子廟政教分離訴訟—最高裁違憲判決の意味—」『世界』944（2021 年 5 月）号：10-14。　など ・2020 年 11 月 1 日、第 93 回日本社会学会大会（オンライン開催）において、「現代日本の道徳教育と自己の再帰性」の題目で報告。 ・2020 年 11 月 14 日、第 38 回宗教法制研究会・第 80 回宗教法学会（京都市内・オンライン開催）において、「「信教の自由」「政教分離」はどう教えられてきたか—高校「政治・経済」教科書の記述分析から—」の題目で報告。 ・2018～2020 年度科学研究費補助金若手研究「戦後日本における「宗教右派」の概念構築と実態把握についての宗教社会学的研究」（18K12208・研究代表者：塚田穂高（上越教育大学））の成果公開の一環として構築したウェブサイト「[宗教と政治]［宗教右派］学術情報サイト」（https://religionandpoliticsinjapan.blogspot.com/）の中のコンテンツ「戦後日本の［宗教と政治］［宗教右派］関連年表」「戦後日本の［宗教と政治］［宗教右派］関連文献リスト」において、本プロジェクトの課題とする「「宗教」教育」に関わる項目・情報を複数掲載した。
学校現場や授業への研究成果の還元について	小中高の現場への成果の還元は今後の課題であるが、大学にて「宗教」教育を行う複数の教員・研究者等に本プロジェクトの成果を紹介することを通じて、「宗教」教育への理解を促進した。また、自らの教育活動において、本プロジェクトの研究成果を活用し、授業教材等に盛り込み、内容の改善を行った。 　なお、本プロジェクトの構想と成果を活用し、科学研究費を申請したところ、

	2021 年度より「戦後日本の「宗教」教育をめぐる社会的議論と教育内容についての宗教-社会史的研究」（基盤研究 C）が採択された。同研究を進めるなかで、本プロジェクトの成果発信も重ねて行っていく。